

水田さんのつづき

「地域の草刈りなどには顔を出していますが、独りなので運動会などの家族行事だと地元との接点がなかなかないなあ。大家さんはすごく親切にしてくれます。無農薬でいいものを作りたい！ いまはまだ少量で出せないけれど、らでいっしゅにもどンドン出していきたい！」。

おり育てたもの。農薬撒いたり化学肥料使えばこの畑でも十分作物が大きく育つと普通は思ってしまうでしょう。でも中身はぜんぜん違う。続けていけば土はかならずダメになる」と水田さん。質のいいミネラルたっぷりのものを作りたいと、ほかしも自分で作っています。

将来は？「牛飼いは中断している

けれど、いつかまた飼いたい。鶏も飼って、自給できて最低限の経営は確保できる、規模は大きくないけれど、有畜複合の循環した農業、くらしを実現させたい」。代表の丸岡さんからは「夢見たいなことばかりや」と言われながらも、水田さん、少しずつ夢を手繰り寄せているようでした。

家族できたゾ

青木伸一さん39歳 美恵さん
実夏ちゃん5歳 杏介くん1歳



伸一さんは元々マンションメーカーに務めるサラリーマン。当時から環境問題を自分のテーマとして考えていました。バブルもはじけ、「これからのマンションについて」が議題となったとき、「太陽熱利用・雨水利用・屋上緑化・生ゴミ処理施設の設置」や「会社としてのISO14000の取得」などを提案しますが、うまくいかなかったそうです。

「有機農業の良さは前々から知っていたのでそれを機にこの世界に飛び込みました」。2年前、京都府農業会議に就農相談していた時に、丹後有機産直グループの今井幹夫さん^(※1)が研修生の募集をしていたので、これをチャンスと応募。今井さんを手伝いながら農業を勉強し、今年から念願の独立。今年はおぼちゃ、いんげん、にんじん、すいかの栽培に挑戦しています。

「200万円くらいの収入を見込んでいたけれど、なかなか予定通りにはいかないもんだなあ」。……灌漑設備が予定どおり整わなかったこともあ

り人参の発芽に失敗。かぼちゃは地域で流行った疫病にかかる、いんげんは品種選定ミスで収量が上がらない、すいかは出荷前に破裂してしまうものがあるなど、トラブルが続出。

「今井さんを手伝っていたときは、やはりどこかで頼ってしまっていた。自分でやるのとは違うね。これからひとつひとつ課題を克服してやっていきたい」と話します。

毎日が草との闘い。新規就農で手探りですから、ご近所や農協の方が畑を見にきては、あれを使え、これを撒きなさいといろいろ言うてくるそうです。でもどうしても農薬は使いたくない、なにより子どもたちに安全なものを食べさせたい、という想いで取り組んでいる青木さんご夫婦。

「家族だけでは食べきれない野菜を、娘が通っている保育園の給食に差し入れたりしています。給食は予算で賄われるから、素材の安全性にまでこだわる余裕がない。子どもたちにこそ安全でおいしいものを食べて欲しいのに。私たちの野菜が少しでも子どもたちの健やかな成長に役立ったら、と願っています。給食を調理されている方にも喜んでもらえて……。子どもたちの食についてもっとみんなと考え、変えていきたいんです」とパートナーの美恵さんは語ってくれました。

※1：らでいっしゅのWESTにレタスやグリーンボール、ブロッコリーを出荷しています。

青木さんのつづき

今年奥大野の農家・非農家15名と「楽農くらがき」という農業グループを結成しました。地域に支えられている日本農業は減反・転作・輸入の増大と価格低迷等に瀕死の状態です。また、効率ばかりを追求した農業は農薬使用による生態系の破壊を招き、ほったらかしの山林はおいしい作物を育む水の浄化作用を失いつつあります。私たちは「地域の発展」「地域農業」「自然環境」は三位一体と考え、活動しています。取り組みの柱として「転作田の有効利用」「地域から出る生ゴミの堆肥化とその有効利用」を中心に据えています。詳しくは、最近ホームページを開設しましたのでそちらをご覧ください。

http://203.174.72.111/ok_uono-mura/



テントはお子さん用。「畑の守りより子守りせえ」と言われたことも。奥は開墾したばかりの畑。